

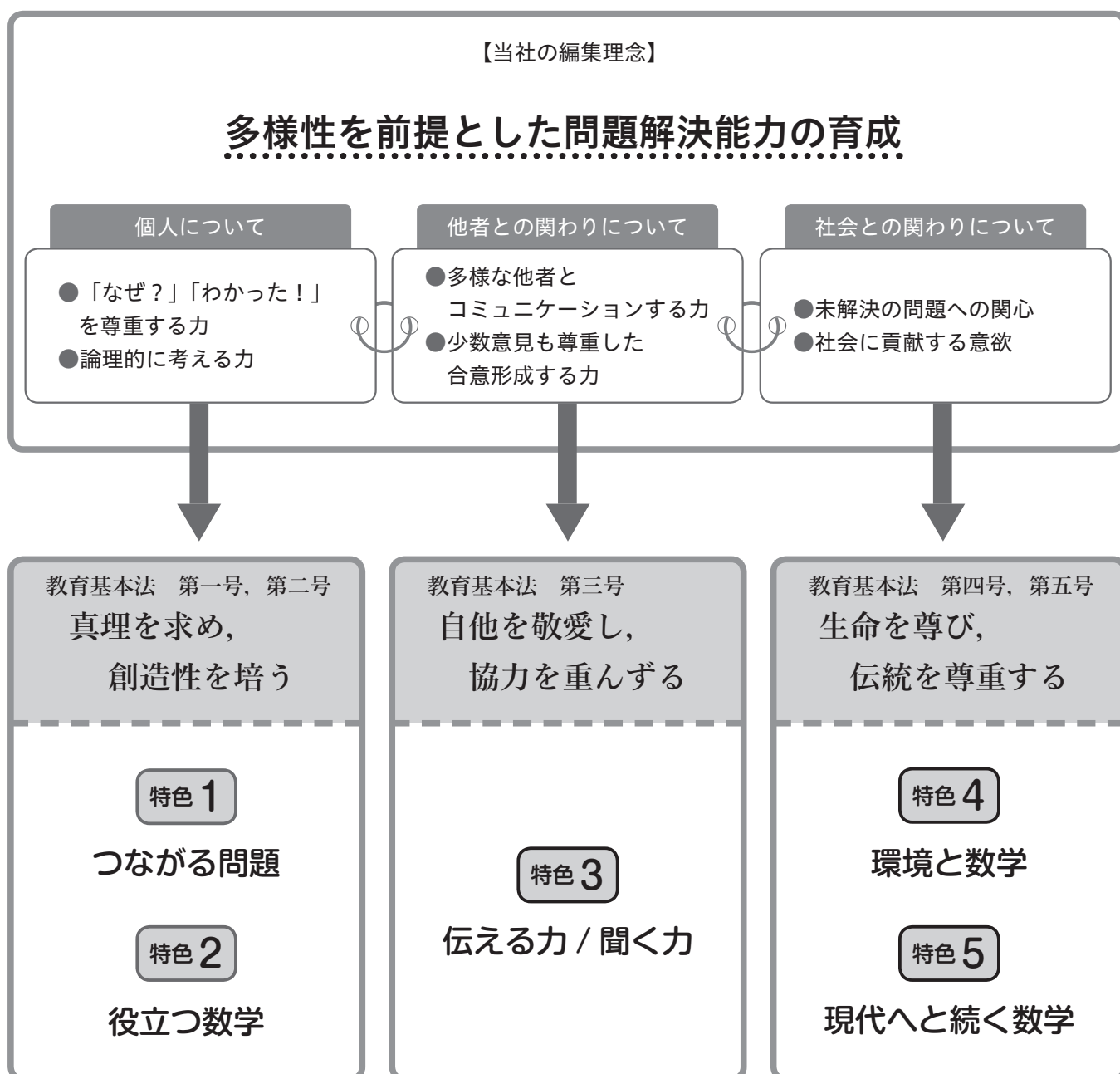
編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31 - 56	中学校	数学	数学	3
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
11 学図	903	中学校数学 3		

1. 編修の基本方針

教育基本法を大前提として、資質・能力が育成されるよう、様々な工夫をこらして教科書を編集しました。



真理を求める態度を養う

特色 1

つながる問題

— 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。

身のまわりから、数学の学習の中から、自ら問題を発見し、それを数学の問題として考えていく中で、必要な知識や教養を身につけられるようにしました。そこから、数学だけでなく、生活の中における問題解決のための力を養うことや、問題を見直し、批判的に考察することで、真理を求める態度を養うことができるようにしました。

次の課題へ！
 様々な疑問から問題を発見する場面を設定することで、なぜ学習する必要があるかが明確になり、また見通しをもって学習に取り組むことで、学習の動機づけを行うことができるようにしました。

QUESTION
 自らが見つけた課題を、数学の問題として解釈し、場面をモデル化したり、理想化したりすることで、どのように解決していけばよいか主体的・対話的に考えながら、取り組むことができるようにしました。

見方・考え方
 問題を解決するために、どのような「見方・考え方」をしていくのかという一つの目安を提示することで、今後の学習や生活に応用できるようにしました。

話し合いから目標
 課題に対し、話し合いの場面を提示することで見いだされることを目標として設定し、自分たちが見つけた課題を解決していくという意欲をもたせることができるようにしました。

どんなことがわかったかな
 自分たちが見つけた目標に対し、どんなことがわかったかをまとめ、その中から発見した新たな問題を入れることで、学習のつながりを意識しながら、主体的に学習を深めていけるようにしました。

次の課題へ！

4章 関数 $y=ax^2$

下の図は、ジャンパーの斜面を降り降りたとき、スタートしてから1秒ごとの位置を示したものです。次の問いを考えてみましょう。

(1) 降り始めてから x 秒後に降り降りた距離を y m として、 x と y の関係を表すと、次の表のようになります。対応する x , y の組の組を照らし合わせる。右の図にかき入れてみましょう。また、グラフはどんな形になるか考えよう。

x (秒)	0	1	2	3	4	5	...
y (m)	0	0.5	2	4.5	8	12.5	...

(2) y は x に比例する、または、 y は x に反比例するといえるでしょうか。その理由も説明しましょう。

見方・考え方
 この場面では、ジャンパーの斜面を降り降りたとき、スタートしてから1秒ごとの位置を示したものです。この場面をモデル化して、理想化して考えよう。

目標 ▶ ジャンパーが斜面を降り始めてからの時間と降り降りた距離の関係を調べよう。

▶ P.100 ~ 101

QUESTION

101ページの斜面の傾斜を変え、ジャンパーを斜面を転がるボールにおきかえて実験しました。転がり始めてから x 秒間に進んだ距離を y m として、 x と y の関係を表すと、次の表のようになりました。 x と y の間にはどんな関係があるでしょうか。

x (秒)	0	1	2	3	4	5	...
y (m)	0	0.5	2	4.5	8	12.5	...

見方・考え方
 これまでと同じように、関数として考えられるかな。

目標 ▶ ボールが転がり始めてからの時間と転がる距離の関係を調べよう。

▶ P.102

どんなことがわかったかな

ボールが斜面を転がるときの時間と距離の関係のように、身のまわりには関数 $y=ax^2$ の式で表せるものがあります。

次の課題へ！

関数 $y=ax^2$ は、どんなグラフになるのかな？

▶ P.104

QUESTION

関数 $y=x^2$ について、次のような表をつくることができます。対応する x , y の値の組を座標とする点を、下の図にかき入れてみましょう。また、グラフがどんな形になるか考えてみましょう。

x	...	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	...
y	...	16	9	4	1	0	1	4	9	16	...

見方・考え方
 これまでと同じように、いくつかの点をとって考えられるかな。

関数 $y=x^2$ では、 y の値は0以上になるね。

グラフは、直線ではなさそうだけど、曲線になるのかな。

目標 ▶ 関数 $y=ax^2$ のグラフや、その特徴について調べよう。

▶ P.105

創造性を培う

特色 2 役立つ数学

身のまわりで、普段気づかないようなところにも数学が潜んでいると気づくことができるように配慮するとともに、数学を実際に役立てている職業にスポットライトを当て、数学を学ぶ意欲を喚起することができるようにしました。

役立つ数学
これまで学んだ数学がどんなところで役立っているかをコラムで紹介し、学習に対する意欲を高めることができるようにしました。

数学の力
キャリア教育の一環として、数学を実際の仕事に役立てている人のコラムを掲載しました。

役立つ数学

デッサンと相似

デッサンをするとき、腕をのびし鉛筆を使ってデッサンするときの(対象物)の大きさを測ることがあります。これは、対象物の大きさを測るときに、相似を利用して、目の図のように、対象物の一部(BC)を鉛筆で測ると、目(A)は相似の中心となり、△ABCと△A'B'C'は、相似の位置にあります。この方法で必要な線分の長さを測りつつデッサンすることにより、それぞれの測りつつの相似比はすべて等しくなり、正確なデッサンをかきことができます。

役立つ数学

船の位置を求める方法

海上に航海するためには、海図(航海のための地図)上で、自分の位置を測ります。レーダーやGPS(人工衛星から信号を受け取り、現在位置を測る)のなかった時代は、自分の位置と陸上の3地点それぞれを結び、それぞれの線分を延長して、3つの交点を結ぶことで、船の現在位置を知る方法がありました。

右の図は、船の位置Pから測定した角度が、 $\angle APC=28^\circ$ 、 $\angle CPB=60^\circ$ のときのものです。点Pは、A、Cを通る直線ACに対する円周角が 28° となる円Oと、B、Cを通る直線BCに対する円周角が 60° となる円O'の交点のうち、点Cでない方になります。

三杆分度器

三杆分度器

船の位置P

▶ P.178 **▶ P.200**

数学の力
~ものづくりの哲学~

独立時計師という仕事を知っていますか?
企業に属する職人で時計を作る職人です。スイスに独立時計師協会という団体があり、私も2013年から正会員として所属しています。協会には、様々な国産の会社が約30名ほど所属しており、それぞれの時計師が独自のデザインと技術を持って、大量生産品の時計とは一味ちがった魅力のある時計を作っています。

時計作りに役立てている機械の1つが顕微鏡です。顕微鏡は、小さいものを拡大するための機械です。顕微鏡では、レンズ1枚だけで対応できる場合が少なく、複数のレンズを重ね合わせることが多くなっています。しかし、私がお使いしている顕微鏡は別のもの、文字や細部の原形を拡大し、それを拡大して印刷します。作りやすい高級なガラス原形を機械にセットし、自分の手を回らざるやうにアームを動かすことで回転する方が材料を削ります。

なぜ高い機械を使うかというと、正確さを保つためです。自分の顕微鏡は自作ですが、部品1つを作る「副業」に自分が開発して製作する方が作ります。自分自ら作る部品は精度が高く、安定しているからです。顕微鏡が似た形状に加工できるように、今から約400年前に発明された、1800年代前半には、顕微鏡として使われていた時計師も使われていました。

私は学生時代、数学が苦手でしたが、数学を学ぶことが何の役に立つかわかっていませんでした。しかし、現在、私の時計作りの大きな助けとなっている機械が、数論で加工されたものばかりです。数学の知識を応用して、便利なものや新しいものを生み出すことも、数学の一部なのだと思います。みなさんが興味を持ってくださると、きっと数学が面白くなります。

独立時計師 菊野昌宏さん

▶表見返し

自他の敬愛と協力を重んずる

特色 3 伝える力 / 聞く力

三 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。

自分の考えを人に伝えることと同じように、人の話を聞くことが大切であると気づくことができるよう、他者の考えを説明する場面を設定し、実際にどんなことに注意して考えを伝え、考えを聞くかが明確になるようにしました。

表現する力を身につけよう
自分の考えを他者に伝えたり、他者の考えを理解したりする思考力、判断力、表現力等が身につくように、発表のしかたやレポート例を掲載しました。

表現する力を身につけよう

自分の考えを他者に伝えたり、他者の考えを理解したりする思考力、判断力、表現力等が身につくように、発表のしかたやレポート例を掲載しました。

発表のしかた

発表する人

発表する人

発表する人

発表する人

▶ P.252 ~ 253

レポート例

2023年10月20日

グループ発表の準備

発表の準備

発表の準備

発表の準備

▶ P.254 ~ 255

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
全章	男女生徒の名前はすべて「さん」つけとしました（第三号）。	全般
	自分の考えを説明したり，話し合ったりする活動を取り入れました（第二号）。	14 ページ他
	学習中に抱くであろう生徒の問いを取り上げ，それを解決していこうとする姿勢を養うようにしました（第一号）。	20 ページ他
1章 式の計算	書籍がどのようにつくられているかについて知ることができる課題を取り上げました（第二号）。	41 ページ
	因数分解に関連して，店の売上の考え方について取り上げました（第二号）。	42 ページ
2章 平方根	普段使われている A 判，B 判とよばれる紙の縦横比が $1:\sqrt{2}$ であることを取り上げ，身近にある平方根について考察できるようにしました（第一，二号）。	64～65 ページ
	平方根に関連して，カメラのシャッタースピードと絞り値について考察する課題を取り上げました（第三号）。	71 ページ
	昔から建築などで使用されている曲尺について取り上げ，道具の中に隠された昔の人の知恵に触れることができるようにしました（第二，五号）。	73 ページ
3章 2次方程式	クリーンエネルギーである太陽光発電を題材として取り上げ，地球温暖化の問題を考える際の基礎を培うことができるようにしました（第四号）。	74～75 ページ
4章 関数 $y=ax^2$	投げ上げたボールや，飛行機の先端部，パラボラアンテナなど，身のまわりに放物線があることに触れることができる話題を取り上げました（第一，二号）。	112 ページ
	クリーンエネルギーである風力発電に関連し，再生可能エネルギーを利用した教材を取り上げました（第二，四号）。	131 ページ
	車のスピードと停止距離の関係について取り上げることで，交通安全や身のまわりの危険に対する意識を育むことができるようにしました（第三号）。	133～135 ページ
5章 相似な図形	相似な立体の体積比に関連して，カップ麺のサイズと値段の問題を考察する課題を取り上げました（第二号）。	177 ページ
	デッサンをするとき，相似の位置を利用して正確な絵が描けることを紹介し，美術科との関連に触れることができるようにしました（第二号）。	178 ページ
6章 円	安全な航海のために自分の船の位置を知るために，円の性質を利用した三杆分度器を用いることができる話題を取り上げました（第二，五号）。	200 ページ
7章 三平方の定理	フェルマーの最終定理についての話題を取り上げることで，数学に対する興味・関心を抱くことができるようにしました（第一，五号）。	212 ページ
	三平方の定理を利用して目標物までの距離を測る機器に関する課題を取り上げました（第二号）。	224 ページ
8章 標本調査	視聴率を調べる際に，標本調査の考えが利用されていることを扱う課題を取り上げました（第三号）。	229 ページ
さらなる数学へ ～協働学習のページ～	SDGs に関連して，エシカル消費について取り上げ，社会において自分たちに何ができるかを考察することができるようにしました（第二，三，四，五号）。	248～251 ページ
	表現する力を身につけるためのレポート活動を取り上げ，レポート発表における発表する者とそれを聞く者の注意点を示しました（第一，二，三号）。	252～255 ページ
	伊能忠敬と彼がつくった地図を取り上げました（第五号）。	264 ページ
口絵	数学を役立てている職業の人のコラムを掲載することで，数学が自分たちの生活に生きていることを実感できるようにするとともに，主体的に社会の形成に参画しようとする態度を養うことができるようにしました（第二，三号）。	表見返し

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- (1) 学校教育法第二十一条六の目標を達成するために，8章「標本調査」では，乱数の発生について，コンピュータを用いて能率的に処理できるように配慮しました。
- (2) 学校教育法第二十一条七の目標を達成するために，4章「関数 $y=ax^2$ 」の問題の中で，風速と風圧の関係について取り上げ，科学に対する基礎的な能力を養うようにしました。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
31 - 56	中学校	数学	数学	3
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
11 学図	903	中学校数学 3		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1 主体的・対話的で深い学びを実現するために

① 主体的な学びの実現

章の導入で、新しい学習内容への興味・関心が得られるよう、身近な題材を扱い、自然に出される疑問を発見し、それについて考えてみたいという意欲を引き出し、「次の課題へ!」として提示しています。

その疑問を受ける形で、「Q」として数学の問題におきかえ、これからどんな学習をすればよいかという「目標」を、自分たちの言葉で表し、学習を進めていきます。

ある程度の学習を終えた段階で、「どんなことがわかったかな」としてこれまでの学習をまとめ、さらにそこから出される「次の課題へ!」とつなげていくことで、自分たちの疑問を解決する形で学習が進められるという主体的な学びが実現できるようにしています。

② 対話的な学びの実現

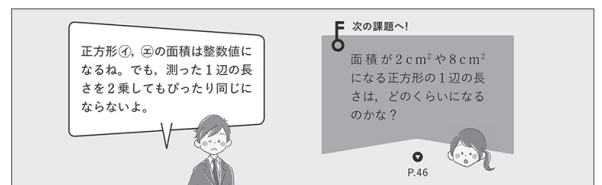
「Q」では、つねに話し合い活動を取り入れ、その話し合いから学習の目標を立てることで、対話的な学びが実現できるようにしています。

また、「数学的活動のページ」では、問題発見から課題解決を通して話し合いをベースに考え、さらに新たな問題を発見する過程を示すことで、対話的な学びが実現できるようにしています。

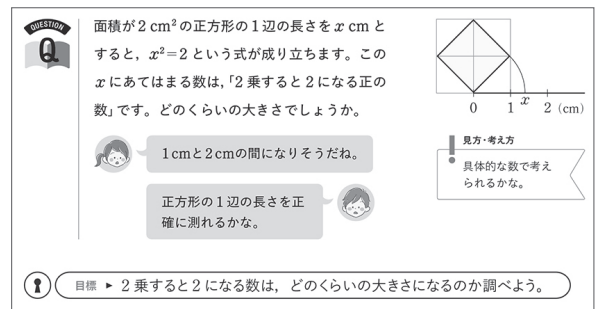
③ 深い学びの実現

「数学的活動のページ」では、問題を発見し、解決する過程を示していますが、さらに新たな問題を発見したり、条件を変えて考えたりできるような問いかけを示すことで、深い学びが実現できるようにしています。

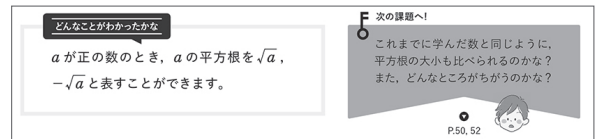
また、章末の「深めよう」、巻末の「疑問を考えよう」などの課題を通して、章ごとの学習だけでなく、領域横断、教科横断的な学習に取り組むことができるようにしています。



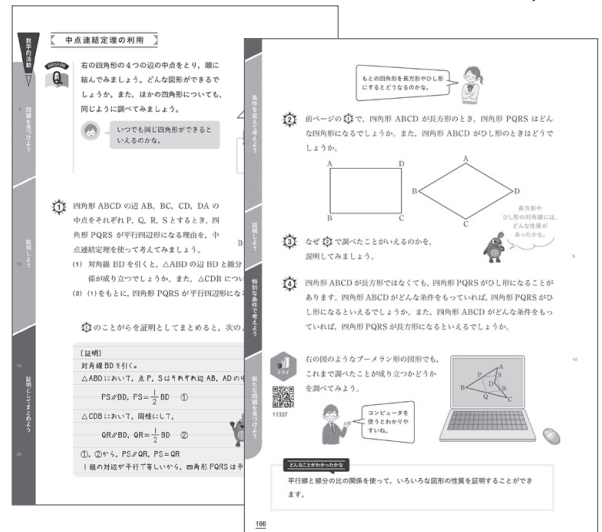
▶ P.45



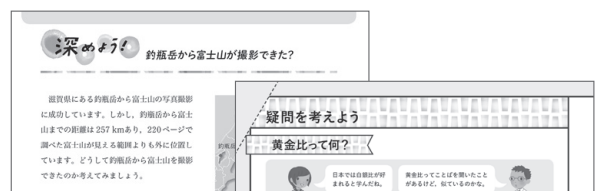
▶ P.46



▶ P.49

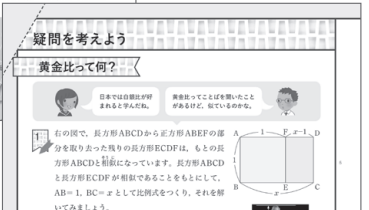


▶ P.165 ~ 166



▶ P.226

▶ P.256



2 資質・能力を育むために

① 基礎・基本を含む知識・技能の育成

本文中の「例」では、適切な箇所にノート形式の解答を示し、模範的な解答の書き方を示しました。ノートを書く際に気をつける点についても同時に示すことで、基礎・基本を身につけることができるようにしました。

問の中で適宜、誤答問題である「正しいかな？」を設定し、誤りやすい箇所などを明確にすることで、さらなる習熟が図れるようにしました。

「計算力を高めよう」、「確かめよう」では、どこで学んだ学習であるかを明確にすることで、つねにふりかえって学習に立ち戻れることを示しました。

② 思考力・判断力・表現力等の育成

「数学的活動のページ」では、身のまわりの事象の中から問題を発見し、考察したり、性質を見いだしたりすることで、統合的・発展的に課題を解決していくことができるようにしました。

また、本文中の「問」や章末の「活用問題」では、論理的に思考したり、問題文から必要な情報を取捨選択したり、それを説明したりするといった課題を取り上げました。

③ 学びに向かう力・人間性の育成

章の学習の最後に、「できるようになったこと」として、これまでの学習からどんなことができるようになったか、自分で判断できるようにしています。また、「さらに学んでみたいこと」を自分のことばで記入することで、もっと学んでみたいという意欲をもたせられるようにしました。

本文中の「おしえて！」では、学習の中で子どもが自然に感じるであろう疑問を取り上げ、その答えの1つとして「Tea Break」でコラムを掲載しています。

巻末の「今の自分を知ろう」では、SDGsを取り上げ、その中から自分たちができることが何かを考察し、生活にいかに関与できるかを実感できるようにしました。

例7 $(x+5)^2 - (x+5)$ を因数分解しなさい。

考え方 $x+5$ を1つの文字におきかえて考える。

解答

$x+5$ を M とおくと、	
$(x+5)^2 - (x+5)$	
$= M^2 - M$	共通な因数 M を、 かっこの外にくくり出す
$= M(M-1)$	
$= (x+5)(x+5-1)$	M を $x+5$ にもどす
$= (x+5)(x+4)$	

▶ P.31

問6 真央さんは、方程式 $x^2=5x$ を右のようにして解きました。この解き方は正しいですか。因数分解を利用してこの方程式を解き、真央さんの解き方と比べて考えなさい。

正しいかな?

$x^2=5x$
両辺を x で割ると、 $x=5$
答 $x=5$

▶ P.81

目標 文字を数に代入し、2次方程式を解く方法を考えよう。

次の①～⑥の2次方程式を解くことができるかどうか考えてみましょう。

① $x(x-8)=0$	④ $x^2=4$
② $x^2-25=0$	⑤ $x^2+6x-5=0$
③ $x^2+2x-15=0$	⑥ $(x-3)^2=5$

①は、 $x \times (x-8)=0$ のことから、数の計算と同じように考えると、 x が $(x-8)$ のどちらかが0であれば、その積も0になる。すなわち、②の場合、左辺が $x=0$ または $x-8=0$ のとき、方程式は成り立つ。このことから、右辺を0にして、左辺が因数分解できれば、方程式を解くことができる。

④は、平方根の考えを使うと、 $x^2=4$ 、 $x=\pm 2$ のことから、左辺が2乗の形になっていれば、方程式を解くことができる。

上の真央さんの考えを使って、②の方程式の解を求めてみましょう。また、この考え方で解ける2次方程式は、ほかにもあるでしょうか。

上の真央さんの考えを使って解ける2次方程式は、ほかにもあるでしょうか。

上の2人の考えを使って解くことができる2次方程式はあるでしょうか。

次の課題へ！
どんな2次方程式なら、因数分解の考えを使って解けるかな？

次の課題へ！
どんな2次方程式なら、平方根の考えを使って解けるかな？

▶ P.78

4章「関数 $y=ax^2$ 」を学んで

できるようになったこと

- 2つの数量 x, y の関係が $y=ax^2$ で表されるとき、 y は x の2乗に比例する関数であることが理解できる。
- 2乗に比例する関数のグラフが放物線になることを理解して、グラフをかきことができる。
- 2乗に比例する関数の変化の割合は一定ではないことを理解して、変化の割合を求めることができる。
- 身のまわりや数学の中から見つけた問題を、2乗に比例する関数とみなして、その特徴を見つけて解決に利用することができる。

さらに学んでみたいこと

これからもっと学んでみたいことや、疑問に思ったことを書いておこう。

▶ P.132

▶ P.248 ~ 249

今の自分を知ろう

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

エシカル消費について考えることを考えよう

エシカル消費とは、環境や社会に配慮した商品やサービスを購入し、消費することです。環境や社会に配慮した商品やサービスを購入し、消費することです。環境や社会に配慮した商品やサービスを購入し、消費することです。

SDGsの17の目標のうち、この学習を通じて教育の力を借りて、自分たちにできることに取り組むことで、世界に貢献することができます。

エシカル消費について考えることを考えよう

エシカル消費とは、環境や社会に配慮した商品やサービスを購入し、消費することです。環境や社会に配慮した商品やサービスを購入し、消費することです。環境や社会に配慮した商品やサービスを購入し、消費することです。

エシカル消費のメリット

環境にやさしい商品やサービスを購入する	環境にやさしい商品やサービスを購入する	環境にやさしい商品やサービスを購入する
環境にやさしい商品やサービスを購入する	環境にやさしい商品やサービスを購入する	環境にやさしい商品やサービスを購入する

エシカル消費のデメリット

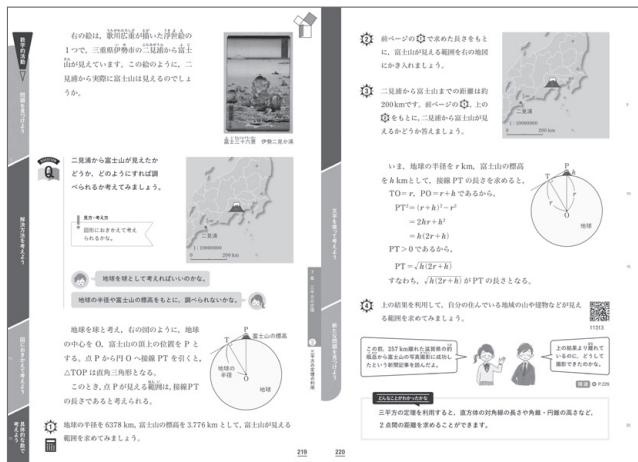
環境にやさしい商品やサービスを購入する	環境にやさしい商品やサービスを購入する	環境にやさしい商品やサービスを購入する
環境にやさしい商品やサービスを購入する	環境にやさしい商品やサービスを購入する	環境にやさしい商品やサービスを購入する

▶ P.250 ~ 251

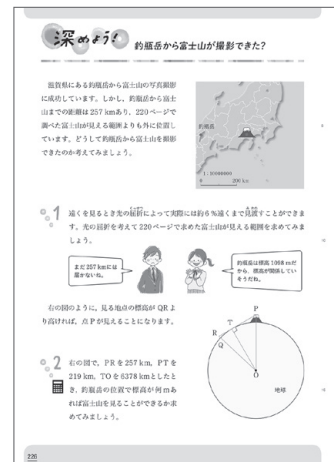
3 数学的活動を通じた学習ができるために

「数学的活動のページ」では、「算数・数学の学習過程のイメージ」を具現化し、1つの課題に対する問題発見から解決までの過程が見えるよう、ページの左側に、いま、どのような過程で学習しているかが明確になるようにしました。さらに、サイクルが1周だけではなく、2周、3周、…と続いていくことで数学的活動が充実できることを示すために、新たな問題を見つけたり、疑問を考えたりするようにしました。

1つの課題だけでなく、本文の展開も、自分たちで見つけた課題「次の課題へ!」から「目標」を発見し、学習を進めて「どんなことがわかったかな」でまとめ、また新たな「次の課題へ!」とつながっていくような展開にしているため、学習全体が数学的活動として展開できるような配列にしています。



▶ P.219 ~ 220

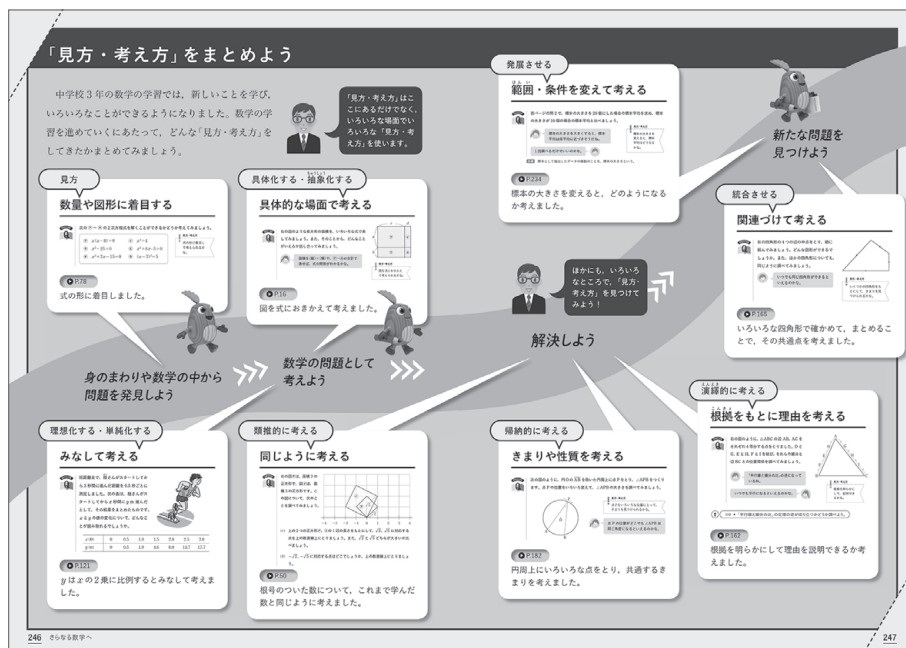


▶ P.226

4 「見方・考え方」を働かせるために

導入問題である「Q」では、問題に対してどのような見方・考え方をしていくのかを側注として明示することで、着実に様々な見方・考え方ができるようになっていき、その他の数学や社会の問題においても、見方・考え方を働かせることができるようにしました。

また、巻末ではこれまでの「見方・考え方」をまとめた『「見方・考え方」をまとめよう』を掲載することで、「見方・考え方」にはいろいろな観点があることが明確になり、より深い理解につなげることができるようになりました。

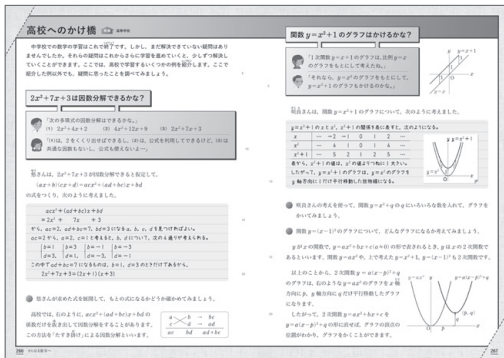


▶ P.246 ~ 247

5 様々な課題に対応するために

① 小中高連携

各領域ごとに「ふりかえり」のページを挿入し、小学校でどんなことを学んできたかふりかえることで、スムーズにその学年の学習に入っていけるようにしました。また、学年の最後には、「高校へのかけ橋」のページを設け、高校数学への見通しがもてるようにしました。



▶ P.266 ~ 267



▶ P.10 ~ 11, 99, 136 ~ 137, 227

② キャリア教育

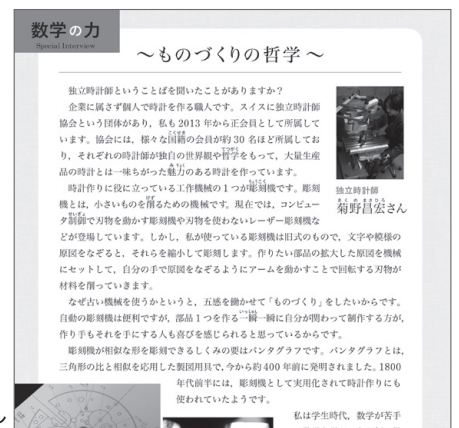
キャリア教育の一環として、表見返しに「数学の力」、章末に「役立つ数学」のコラムを掲載することで、数学が身のまわりなどで役立つことを実感し、学びに向かう意欲を喚起するようにしました。

③ プログラミング教育

裏見返しに「プログラミングを体験してみよう」のページを設定することで、論理的な思考の大切さや ICT 活用の重要性に気づくことができるようになりました。

④ SDGs

持続可能な開発目標 (SDGs) に触れることで、国際的な課題に取り組むことができるよう、パフォーマンス課題として、「今の自分を知ろう」を設定しました。学習の最後にルーブリックによる自己評価表を掲載しており、1年間の学習を総括できるように配慮しました。



▶ 表見返し

6 教科書の工夫

① この教科書を使った数学の学び方

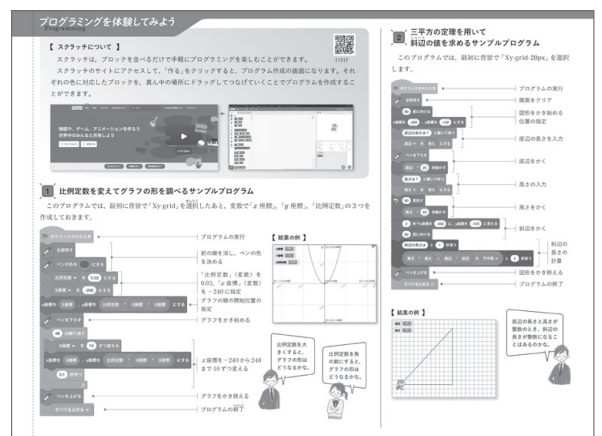
巻頭で「この教科書を使った数学の学び方」を掲載し、どのように学習を進めていくか、典型的な例を示しています。

② アイデアボード

裏見返しにホワイトボードマーカーで書いたり消したりできるページを添付しました。個人で考察する際や、グループで考えを出し合う際などに役立てることができます。

③ ユニバーサルデザイン

特別支援教育の専門家による指導のもと、ユニバーサルデザインに配慮した紙面づくりを行っています。



▶ 裏見返し

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
1章 式の計算	A (2) ア (ア)	12～15 ページ	21
	A (2) ア (イ)	16～22 ページ, 25～31 ページ	
	A (2) イ (ア)	16～22 ページ, 25～31 ページ	
	A (2) イ (イ)	34～38 ページ	
2章 平方根	A (1) ア (ア)	44～53 ページ	18
	A (1) ア (イ)	55～63 ページ	
	A (1) ア (ウ)	64～65 ページ	
	A (1) イ (ア)	55～63 ページ	
	A (2) イ (イ)	64～65 ページ, 71 ページ, 73 ページ	
	内容の取扱い (1)	47 ページ, 59 ページ	
3章 2次方程式	A (3) ア (ア)	74～77 ページ	19
	A (3) ア (イ)	78～85 ページ	
	A (3) ア (ウ)	86～89 ページ	
	A (3) イ (ア)	78～89 ページ	
	A (3) イ (イ)	91～93 ページ	
	内容の取扱い (2)	74～93 ページ	
	内容の取扱い (3)	74～93 ページ	
4章 関数 $y=ax^2$	C (1) ア (ア)	100～118 ページ	19
	C (1) ア (イ)	119～124 ページ	
	C (1) ア (ウ)	126～128 ページ	
	C (1) イ (ア)	102～118 ページ	
	C (1) イ (イ)	119～124 ページ	
5章 相似な図形	B (1) ア (ア)	138～150 ページ	25
	B (1) ア (イ)	168～173 ページ	
	B (1) イ (ア)	148～150 ページ	
	B (1) イ (イ)	156～166 ページ	
	B (1) イ (ウ)	151～152 ページ	
	内容の取扱い (1)	153～154 ページ	
6章 円	B (2) ア (ア)	180～188 ページ	15
	B (2) イ (ア)	182～185 ページ	
	B (2) イ (イ)	192～196 ページ	
	内容の取扱い (4)	181 ページ, 189～190 ページ	
7章 三平方の定理	B (3) ア (ア)	202～208 ページ	14
	B (3) イ (ア)	204～205 ページ	
	B (3) イ (イ)	210～220 ページ	
8章 標本調査	D (1) ア (ア)	228～230 ページ	9
	D (1) ア (イ)	231～235 ページ, 242～243 ページ	
	D (1) ア (ア)	236～237 ページ	
	D (1) ア (イ)	233～237 ページ	
計			140

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31 - 56	中学校	数学	数学	3
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
11 学図	903	中学校数学 3		

ページ	記述	類型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項	ページ数
23	多項式どうしの除法	1	A (2) ア (ア) 単項式と多項式の乗法及び多項式を単行式で割る除法の計算をすること。	0.5
63	乗法公式を使った分母の有理化	1	A (1) イ (ア) 既に学習した計算の方法と関連付けて、数の平方根を含む式の計算の方法を考察し表現すること。	0.5
98	総当たり戦の試合数は？	1	A (3) イ (イ) 二次方程式を具体的な場面で活用すること。	1
117	瞬間の速さ	1	C (1) イ (イ) 関数 $y=ax^2$ を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。	0.25
193	方べきの定理	1	B (2) イ (イ) 円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用すること。	0.25
196	内接円	1	B (2) イ (イ) 円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用すること。	0.25
201	動かして考えよう	1	B (2) イ (イ) 円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用すること。	1
258 ~ 259	放物線はみな相似？	2	B (1) イ (ウ) 相似な図形の性質を具体的な場面で活用すること。	2
260 ~ 261	バランスのとれる場所はどこ？	2	B (1) イ (ア) 三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめること。	2
266 ~ 267	高校へのかけ橋	1	A (2) イ (ア) 既に学習した計算の方法と関連付けて、式の展開や因数分解をする方法を考察し表現すること。 C (1) イ (ア) 関数 $y=ax^2$ として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現すること。	2
合計				9.75